

仕事 01 CASE

# Smooth & Speedy あらゆる空間を、快適に。

製造  
佐藤 優哉さん (19歳)  
株式会社アステム (蔵王町)

業界ナンバーワンの「短納期」を支える  
ユーティリティープレイヤー

アルミ製のフレームに板状のパーツを一つ一つビスで固定し、手作業で制気口類の一種「ガラリ」を組み立てる佐藤優哉さん。制気口類とは、空調用の吹出口や吸込口、換気用の給気口や排気口などの総称。ガラリは、外気の取り入れや内部の空気の排出のため、外壁などに取り付けられている。「特注品など少量生産品は、こうして機械ではなく手作業で組み立てます」と佐藤さんは教えてくれた。

株式会社アステムは、建物や部屋の天井に張り巡らされる「ダクト」と呼ばれる管に付随する製品を中心に、開発・設計から製造・販売までを担っている。取引先のあらゆる要望に対応できる「受注生産」と、圧倒的な「短納期」を武器に、住宅や店舗、公共施設など、全国の建物で同社の製品が採用されている。

オーダーメイド品にもかかわらず、短納期を可能にしているのは、一人で何役もこなすことができる社員の方だ。まだ入社2年目の佐藤さんは、製品の組立に関係する機械作業と手作業の2つの工程に分かれるほか、穴あけ加工や検査など、すでに複数の作業を担当することができるといいます。

「一人でいろんなことができれば、忙しい人を手伝うことができます。また、計画的に有給休暇を使うことができるため、プライベートも充実させることができます」

を感じる毎日を送っている。

## 高校で知らされた「50%の衝撃」 未知の職種にあえて飛び込む

佐藤さんは、大河原商業高等学校の情報システム科で学んだ。多くの生徒が卒業後に就職するため、高校2年生の冬から周囲は、どんな職種に就くか意識し始めていたという。

「自分もどこかには就職するんだろうな……」とちよつとのんびり構えていた佐藤さん。ある日先生から、高校新卒者の半数が、入社3年目までに辞めてしまうことを聞いて驚き、就職先について真剣に考えるようになった。

好きなことや得意なことをやりたいと仕

経験が浅いほかの作業は、スピードよりも確実に作業することを心掛ける。「仕事に慣れば、おのずとスピードは身に付く」という先輩の教えを心得ている。「人と比べて、物覚えは悪いほうかもしれませんが、まだ、先輩たちのようには、上手に複数の仕事をさばくことはできないが、「毎日違う環境で刺激があります。仕事に飽きがないのがいいですね」とおどける。

オリンピックを前に建設ラッシュに沸く首都圏から多くの仕事が無いため、工場は活気にあふれている。佐藤さんはメンバーの一人として力となることに、やりがい

### 企業情報

株式会社アステム  
所在地 / 刈田郡蔵王町矢附字川原脇1-2  
TEL 0224-22-7780  
http://www.e-astem.jp/

代表取締役 / 野口 敬志  
資本金 / 3,100万円  
設立 / 1962年6月  
従業員数 / 97人 (2019年12月現在)  
事業内容 / 制気口・防火ダンパー、空調用機器の設計・開発・製造・販売  
経営理念 / 一、私たちは、「人」と「空気」の調和をテーマに、快適空間を演出する空調機器を提供します。  
二、私たちは、関わる全ての人たちと手をつなぎ、ものづくりを通して地域社会に貢献します。  
三、私たちは、喜働と愛和の精神で、互いの夢を実現できる活力集団を目指します。



## 株式会社アステムが守る、快適・安全な屋内環境

同社では、空調用制気口類である吹出口や吸込口など、室内の冷房と暖房をスムーズに循環させる【室内環境を快適に保つ】製品を作っています。また、火災の際にダクトからの延焼を食い止める防火ダンパーや、煙を素早く室外に排出する排煙口など、【災害時に人の命を守る】製品も手掛けています。

### シーリングディフューザー

天井に取り付ける丸型、角型の吹出口です。「コーン」と呼ばれる錐形の羽根を上げ下げすることで、吹き出す風の流れを垂直方向や水平方向に調整可能。冷房時にはコーンを下げ、暖房時にはコーンを上げて調整します。



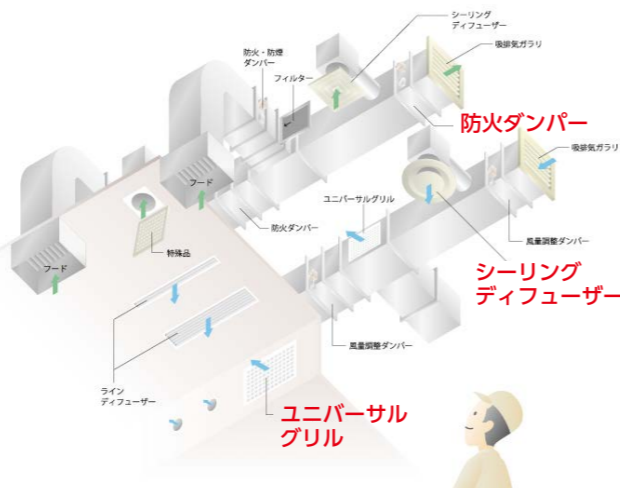
### 防火ダンパー

火災時に発生した炎は、ダクト内を通じて高速で伝わり、別の部屋やフロアに延焼してしまう可能性があります。その経路を瞬時に遮断し延焼を防ぎます。



### ユニバーサルグリル

縦と横の羽根で構成されたシンプルなデザインの吹出口です。天井や壁に取り付けられ、オフィスをはじめ様々な場所で使用されています。



今日の経験を明日の糧に  
できることを一つずつ

手作業で「ガラリ」の組み立てを行う佐藤優哉さん



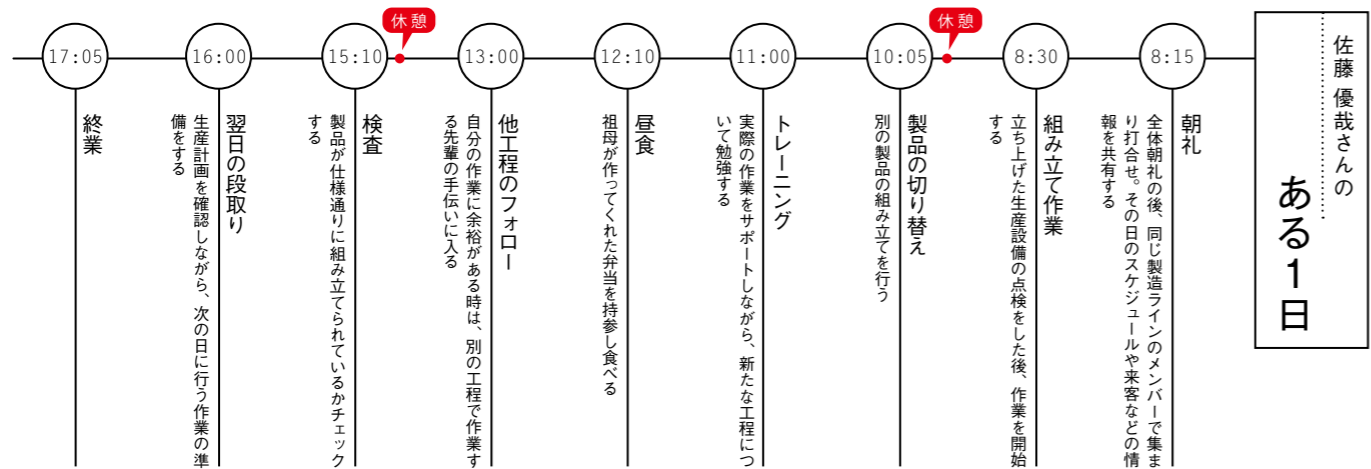
リーダーの指示を受けて、穴あけ工程をフォローする



グリル製造ラインで検査を行う。製品が規定通りのサイズか確かめる



グリル用フレームに仮止めした羽根を、本止め専用の機械で固定する



分からないことは、何でも先輩に聞く。先輩からのアドバイスは、成長への近道



溶接作業のトレーニング。先輩の説明にも熱が入る




始業直後や作業の合間に普段使っている設備の点検を行う

未来のACEへ  
先輩からのアドバイス

就職活動の時には、「やりたい職種だから」「好きなことだから」「有名な企業だから」というだけの理由で、その仕事に対して良いイメージを持ってしまいがちです。これでは、実際に入社してから「こんなはずではなかった」とギャップを感じるのは、当然のことだと思います。

企業説明会で質問したり職場見学に参加したりして、「明るい職場で人間関係に困らなそう」「教育の体制がしっかりしていて成長できそう」など、実際に働くイメージが持てるかどうかを基準に就職先を考えてみてください。

「イメージ」と言えば、もう一つ。仕事で壁にぶつかった時は、「それを乗り越え、成長した姿をイメージすること」をおススメします。モチベーションアップにつながりますし、実際に壁を乗り越えた時は、本当に大きく成長することができます！



## 上司に聞く

製造課 課長 村上 博之さん

弊社では、一人が複数の作業を行い技術を身に付ける「多能工」の育成に力を入れ、受注状況や生産の進捗よくに合わせた人員配置や社員が休んでもカバーし合えるような体制を整えています。

「グリル」製造ラインの8工程のうち4工程で作業ができるようになった佐藤君。入社2年目としては、十分な戦力として育っています。新たに覚える作業にも、持ち前の笑顔と前向きさで真剣に取り組み成長につなげ、先輩社員からは、「教えやすい」「声を掛けやすい」と評判は上々です。

これから佐藤君は、様々な失敗や苦勞に直面すると思います。人によっては、それが原因で悩んでしまい、自己嫌悪に陥ることもあります。しかし、失敗は全力でフォローするので心配は無用です。「失敗は成長のチャンス」というくらいの気持ちを持ってほしい。そして、その経験を糧にして、さらに活躍の場を広げてほしいと思っています。

ポジティブな性格を武器に成長を続ける  
失敗を恐れることなく更なる躍進に期待

入社5カ月ほどで、最初に担当した制気口検査工程の仕事に慣れてきた。そこで、検査の前後工程である組み立てや梱包の仕事も覚えることになった。最初は、組み立てが上手いかず、先輩に手伝ってもらったときも。そのたびに、先輩の作業をストップさせてしまい、申し訳なく思ったが、「次につなげよう」と気持ちを切り替えた。

こうして、着実にできる作業を増やしていった佐藤さん。「上司や先輩から信頼して仕事を任せてもらえるような、オールラウンダーになりたい」と意気込んでいる。

休日、家族でショッピングモールへ出かけた時、自社の製品が施設内に使われていることを姉から聞いた。「製造に関わった製品が、実際に取り付けられて役に立っているところを見ることがうれしいですね」と感慨深げだ。

佐藤さんはこの春、いよいよ入社3年目を迎える。高校生の時、「半数が辞めてしまおう」というデータに衝撃を受けたが、今の仕事を辞めたいと思う要素は「全く見当たらぬ」と笑う。

「去年ちょっとだけ体験させてもらった溶接を、本格的にやってみたいです。ほかにも、まだまだやりたいことがたくさんあります！」

事を探すと、「こんなはずじゃなかった」とがっかりしてすぐに辞めてしまうのでは。それなら、自分が全く知らない分野の仕事に就いたらどうだろう。そこで発見や面白いことが見つければ、刺激になるし、長く続けることができるかもしれない。

そんな思いを巡らせながら、学校でアステムの求人票と採用募集のチラシを見つけた。「作業環境や職場の雰囲気の改善に力を入れていることを知り、いい会社だなと思いました」と佐藤さん。3年生の夏、工場見学に行くと、案内してくれた女性社員

員の優しく丁寧な対応に安心感を抱き、てきぱきと働く工場の活気ある雰囲気に好印象を覚えた。「とてもいい会社だよ」と同社に勤めていた姉の勧めも後押しした。

前向きに、着実に仕事を覚える  
更なる高みを目指し挑戦を続ける

入社当初は、生まれて初めて見聞きするものばかり。「ビスを取ってきて」という指示に何をやって来ればいいのか分からず、それがネジのことだと知って驚いた。「仕事で分からないことが多いのは、覚悟していたじゃないか。焦らず、確実に覚えていこう」。そう自らを鼓舞し、分からないことはどんなことでも先輩に聞いて、ノートにメモしていったという。

入社5カ月ほどで、最初に担当した制気口検査工程の仕事に慣れてきた。そこで、検査の前後工程である組み立てや梱包の仕事も覚えることになった。最初は、組み立てが上手いかず、先輩に手伝ってもらったときも。そのたびに、先輩の作業をストップさせてしまい、申し訳なく思ったが、「次につなげよう」と気持ちを切り替えた。

こうして、着実にできる作業を増やしていった佐藤さん。「上司や先輩から信頼して仕事を任せてもらえるような、オールラウンダーになりたい」と意気込んでいる。

休日、家族でショッピングモールへ出かけた時、自社の製品が施設内に使われていることを姉から聞いた。「製造に関わった製品が、実際に取り付けられて役に立っているところを見ることがうれしいですね」と感慨深げだ。

佐藤さんはこの春、いよいよ入社3年目を迎える。高校生の時、「半数が辞めてしまおう」というデータに衝撃を受けたが、今の仕事を辞めたいと思う要素は「全く見当たらぬ」と笑う。

「去年ちょっとだけ体験させてもらった溶接を、本格的にやってみたいです。ほかにも、まだまだやりたいことがたくさんあります！」



CASE 01  
仕事図鑑

Smooth & Speedy  
あらゆる空間を、快適に。

製造  
佐藤 優哉さん (19歳)  
株式会社アステム(蔵王町)

蔵王町にある同社。「ゼロ災害全員参加運動」を推進し、事故のない職場風土づくりを社員自らが工夫して行っている。その取組が評価され、2016年には、中央労働災害防止協会会長賞を受賞した

## 女性も活躍するものづくり 株式会社日の丸ディスプレイ仙台

同社では、佐藤さんや高橋さんのほかにも、女性社員が活躍。様々な工程で看板・サインの一貫生産を支えています。

- 1 商業施設の中で使うアクリル製のサインを加工する。材料の切断、接着仕上げを丁寧に行う
- 2 完成した看板を梱包する。運搬中にキズや汚れが付かないように、確実な包装を心掛ける
- 3 電飾看板の電気配線を行う。LEDの普及で、電飾看板のニーズは高い



**先輩の背中を追いかけ スキルアップにはげむ毎日**

高橋さんが今、最も力を入れていることは作業時間の短縮だ。先輩たちの仕事はとて手際が良い。「一日でも早く先輩に追いつけるように、あらかじめ決めた目標時間内で仕事を終わらせるように頑張っています」。その一方で安全にも気を配っているという。時間にとられ過ぎると、安全への意識がおろそかになり、ケガやミスにつながるからだ。

「一つの作業を終えたら必ず図面を確認し、ひと呼吸置いてから次の作業に移るようになっています。ほかには、身の回りの整理整頓にも気を付けています」

特に難しいと感じている作業は、「加工後の仕上げ」と高橋さんは言う。「サンダー」と呼ばれるやすりを装着した電動工具を使って、板金加工や溶接を施した部分を滑らかに仕上げる。限られた時間と闘いながら、丁寧な仕事を心掛ける。

佐藤さんは、塗装前の下地処理に全力を注ぐ。塗装面を丁寧に磨いて、汚れやキズ、凹凸を取り除く。この地道な作業が、最終的な仕上がり大いに影響するという。「塗装のやり直しは、手間もコストもかかってしまいます。そのため、下地の処理は、小さなキズも見逃さないように、看板の隅から隅まできっちり仕上げます」

複雑な形状や狭い部分に、ムラなくスプレー塗装を施すのが難しい。先輩からコツ

を教してもらいながら、塗装の腕に磨きをかけている。

同じ日に、同じ場所で、同じ先輩がきっかけて入社を決める

佐藤さんは、塩釜高等学校の普通科出身。人と接することに對して、ちょっとだけ苦手意識を持っていたそう。「だから、サービスマンよりも、職人系の仕事の方が向いているな」と思い、ものづくり企業への就職を考えていました」と話す。

高校3年生の夏、塩竈市内で行われた合同企業説明会に参加した。同社のブースで社員と思われる若い女性が待っ姿を見つけると、吸い込まれるように席に着いた。「先

**企業情報**

株式会社日の丸ディスプレイ仙台

所在地 宮城県利府町しらかし台 6-7-1  
TEL 022-356-6789  
<https://www.display.co.jp/> ※日の丸グループ HP

代表取締役 新崎 博

資本金 4,580万円

設立 1993年7月

従業員数 29人(2019年10月現在)

事業内容 看板・POPディスプレイ並びにサインのデザイン・製造・施工等

経営理念

- 一、私達は、高度な製作技術で夢を看える形に変え、お客様の繁栄に貢献します
- 一、私達は、景観を守り地域社会の発展から、日本を元気にしていく企業です
- 一、私達は、素直な心でお互いを認め夢をかたり、感動を共有できる仲間であり続けます



ともに技術を磨き  
ともに高みを目指す

塗装が施された看板をチェックする佐藤茜さん(左)と高橋海結茄さん(右)

## CASE 02 仕事 鑑 東北トップクラスの看板製作技術で まちのコミュニケーションをデザインする

製造 佐藤 茜さん(21歳) | 高橋 海結茄さん(21歳)  
株式会社日の丸ディスプレイ仙台(利府町)

まちで見かける多種多様な看板を  
ワンストップで生産する

塗装を終えた大きなアルミ製看板の仕上がりを確認する、高橋海結茄さんと佐藤茜さん。納得のいく出来栄に、その表情は明るい。

入社3年目、同期入社2人。高橋さんは、材料となる金属板の切断・折り曲げなどを行う板金加工を担当し、佐藤さんが塗装を施す。看板は店舗に新しく掲げられるもので、加熱することにより硬化する専用の塗料を使った「焼付塗装」が施されているという。

塗装の良し悪しは、看板の見た目に直結するだけに、「思い通りに仕上げる事ができたときは、とても達成感があります」と佐藤さんは話す。その横で高橋さんが「後工程である塗装の結果を見ることが、初めて板金加工や溶接の出来が分かる場所もあります」と続けた。

株式会社日の丸ディスプレイ仙台は、屋外広告物や商業施設のサイン・看板などを企画から設計、製造まで一貫生産している。金属やアクリルをはじめ、あらゆる素材を加工できる高い技術で、巨大な看板から精巧な細工のサインまで、幅広いニーズに対応している。

同社が誇る巨大工場は、ショッピングモールなどで見かける高さ10メートルの大型看板を建屋の中で立ち上げることが可能だという。



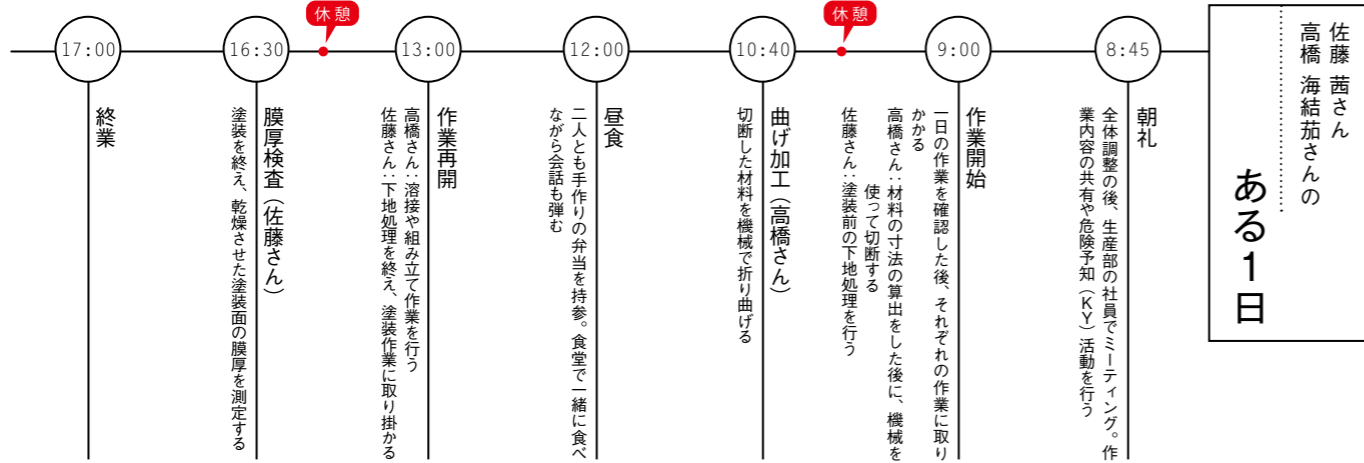
溶接した部分を確認する。思い通りの仕上がりに笑顔がこぼれる



「ベンダー」と呼ばれる機械で、材料の曲げ加工を行う。曲げる角度は自由に設定できる



図面を参考にしながら、切断する材料の寸法を算出する「寸法出し」を行う



乾燥した塗料の厚さ（膜厚）を測定する。適正な膜厚は、塗料によって異なる



看板にスプレー塗装を施す。塗リムラができないように、一気に作業を進める



塗装前の下地処理を行う。大きな看板の隅々まで磨いて塗装面を整える

**未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス**

就職先選びは、高校に届く求人票だけでは分からないことがたくさんあります。その会社で「どんな仕事ができるのか」ということも大切ですが、「どんな雰囲気働けるのか」について知ることはもっと大切です。だから、企業説明会や工場見学など、会社関係者から仕事や職場の雰囲気について直接聞けるチャンスを生かしてみてください。たくさん情報を集めたら、「こーだ！」と自分の直感を信じてみるのもアリかもしれません。

ものづくりの仕事は女性でも大丈夫。力仕事は、男性社員がフォローしてくれるでしょうし、細かい作業は、むしろ女性の方が向いていると思います。

## 上司に聞く

製造部 係長 加藤 渉さん

**何事にも積極的に向き合う姿勢を評価  
「作業時間」を意識して更なる成長に期待**

二人とも真面目で、向上心を持って仕事に取り組んでくれています。新しい仕事をお願いしたときでも、果敢に挑戦してくれる。実のところ、二人が入社した当時は、「仕事が出来ようになるまで、しばらく時間がかかるかな」と思っていました。それだけに、私の予想を裏切るほどの成長は、とてもうれしかったです。

同年代の男性社員よりも気が利くし、気が付いたことは率先して行動してくれる。先輩たちとのコミュニケーションも上手で、明るい職場づくりに大いに貢献してくれています。

ものづくりには納期があり、ときにはシビアな要求があることも。二人にはさらに時間の意識をしてほしいと思っています。品質を維持しつつ、いかに効率良くできるか。互いに競い合い、先輩たちに追いつき追い越せるように頑張ってくれると期待しています。

筋トレを始めました」と佐藤さん。次第に体力が付き、仕事の疲れを感じなくなった。びくともしなかった焼付窯の扉も、力を入れたらコツをつかみ、一人で開閉できるようになったという。

**支え合い、励まし合える  
大切な同期の存在**

自分が製作に関わった看板を街で見かけ、「それを家族に自慢できるのがうれしい」と誇らしげに話す高橋さん。これからは、自分の判断でできることをもっと増やし、仕事の幅を広げたいと思っている。まだ現場では最年少だが、「将来は後輩にも仕事を教えられるようになりたいです」と話した。

佐藤さんも、「塗装する製品の材質や用途によって、適した塗料の種類や塗りは異なります。もっと知識を増やして、塗装を極めたいですね」と意気込む。

これまで仕事を続けてこられたのは、かけがえない「同期」がいたからだと思っている二人。高橋さんが「黙々と塗装に打ち込んでいる佐藤さんの姿は、励みになります。私も先輩に頼ってばかりではなく、もっと一人で頑張らないといけません」とこやかに話すと、「いつも元気で明るい高橋さんから、パワーをもらっています」と佐藤さんがクールに返した。お互いの個性と力を認め合い、これからは最高のものづくりを志して切磋琢磨する。

**「こ」がACEポイント!**

看板やサインなどを一貫生産する会社では、各工程を担当する社員個人の力と、工程間が連携するチームワークが高品質なものづくりを支えている。

新人の佐藤さんと高橋さんは、与えられた仕事を丁寧かつ効率良く行うことを目標に掲げ、技術向上に努めている。「ほかの工程の人たちに迷惑を掛けたくない」という責任感が、二人の成長を後押しする。

**CASE 02**

仕事図鑑

**東北トップクラスの看板製作技術で  
まちのコミュニケーションをデザインする**

製造  
佐藤 茜さん (21歳) | 高橋 海結茄さん (21歳)  
株式会社日の丸ディスプレイ仙台 (利府町)

企業情報  
株式会社エヌエス機器  
所在地 / 石巻市和刈字日照 131  
TEL 0225-72-4037  
http://ns-kiki.com/

代表取締役 / 阿部 秀敏  
資本金 / 3,000万円  
設立 / 1987年7月  
従業員数 / 20人(2019年11月現在)  
事業内容 / 金属製品の鏡面仕上げ、ダイカスト製品の加工、電子機器部品の外観検査、電材品等の販売  
企業理念 / 従業員満足度向上なくして、お客様満足度向上なし。自由闊達な職場風土醸成。



CASE 03  
仕事 図鑑

# 航空・宇宙産業界できらめく磨きのプロフェッショナル

製造 菅原 さよさん (32歳)  
株式会社エヌエス機器 (石巻市)

ハイレベルな研磨加工技術でジェットエンジンの安全を支える

表面に光沢が生まれるまで滑らかにする金属の研磨加工は、見た目を美しくするだけでなく、製品を高精度に仕上げ、表面の摩擦や抵抗を低減できる技術だ。株式会社エヌエス機器では、高度な研磨加工技術を強みに、航空・宇宙機器や医療機器などで使われる様々な部品を磨いている。菅原さよさんが所属するブレード加工課では、航空機のジェットエンジンに使われる「タービンブレード」と呼ばれる部品の研磨加工を担当する。エンジンの安全性・信頼性を左右する重要な部品の一つである

ことから、より高い加工精度が求められる仕事だ。「最初はサンプルを使って、加工の練習を繰り返します。技術が身に付いて実際の製品でやれるようになった時は、とてもうれしかったです」と菅原さん。同社では、難易度によって5段階のレベルが設定され、高いレベルほど習得に時間がかかる。レベル3の「ベルト研磨」ができるようになるまで1年かかったが、まだ入社2年目。菅原さんの飲み込みの早さに上司も驚く。さらに目指すべき上のレベルがある。「早くレベル5の作業ができるようになりたいので、これからも頑張ります」と意欲を燃やす。

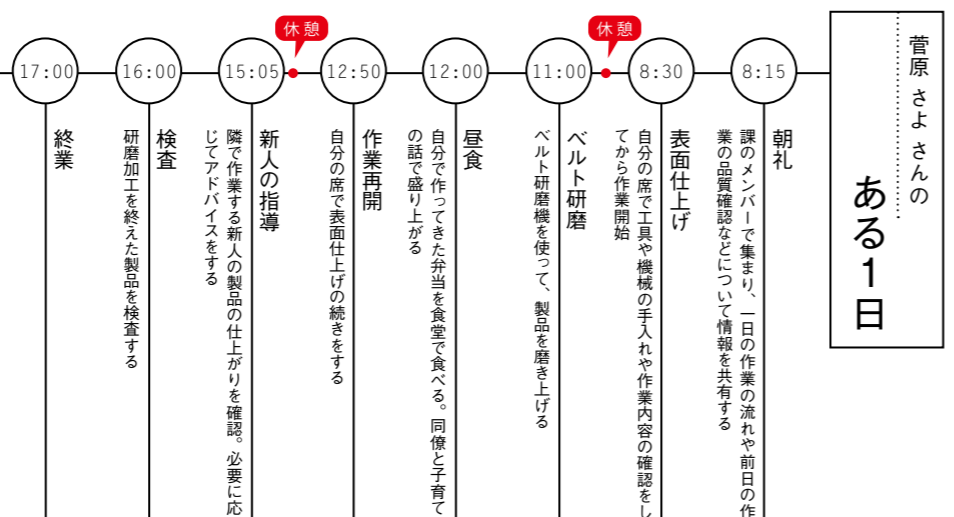
子どもに自慢できる仕事 さらに経験を積みスキルアップを目指す

菅原さんは、涌谷高等学校を卒業してから8年ほど製造業で働いていた経験がある。結婚を機に退職し、その後、長男も生まれる。「夫婦共働きで育ててくれた両親のようにな、私も家族や子どもを支えたい」とハローワークに足を運んだ。やっぱり、慣れ親しんだ仕事がいいと製造業の求人を探していると、「研磨」の文字が目止まった。「前の職場でも研磨工程があったので内容は分かっていたんですが、金属の研磨は未知の分野で迷っていました」と振り返る菅原さん。ハローワーク



再びものづくりができる喜びをかみしめる

職員の「上に立つ人がしっかりしている会社。大丈夫ですよ」という一言が決め手となり、同社への就職を決めた。半年が経ち、新しい仕事にも慣れてきた頃、ちょっとした気の緩みから製品の不良を出すミスをしてしまった。「二度と同じ失敗をくり返したくない」と、作業手順書の隅々まで目を通してから作業を始めようと誓った。その後はめきめきと力をつけ、新人の指導を任されるまでに成長した。人に教えることで新たな発見があり、「さらに知識が増えました」と話す。仕事を通じて、航空機に関心を持つようになり、長男と松島基地や仙台空港に出かけるようになった。菅原さんは、「子どもも飛行機が大好きになりました」と目を細める。「お母さんは、飛行機の部品をピカピカにしているんだよ」といつか長男に伝えようと思っている。そのためにも、「良い製品を作り続けていきたいですね」とこやかに話した。



研磨で生じる金属粉の拡散を防ぐため、作業用のボックス内で行う



新人指導はマン・ツー・マンが基本。優しく丁寧なアドバイスを心掛ける



細かい粒子を吹き付け研磨するプラスチック加工は最終仕上げの工程だ



やすり付きベルトを工具に取り付ける。研磨加工では様々な工具を使い分ける

未来のACEへ  
先輩からのアドバイス

私が高校生の時は、今よりも就職が厳しい時代でした。地元で就職できる会社の選択肢は少なく、「ここかな」と思ったところに決めてしまいました。当時は、早く就職先を決めたかったので、よく考えずに選んでしまいました。良い職場に恵まれラッキーだったと思っています。

今は、就職先の選択肢はたくさんあると思います。迷ってしまったのかなかなか決まらない人もいるでしょう。そんなときは、たくさんの方の企業を見て、いろいろな人の話を聞いてみてください。

ものづくり業界にも女性がたくさん働いている企業があります。先輩は優しく仕事を教えてくれるし、休憩時間のおしゃべりも楽しいです。この会社のように、飛行機やロケットの部品を作るようなすごい仕事もありますよ。



- 1 タービンブレードのバフ研磨を行う菅原さよさん。高速で回転する綿やフェルトなどで作られた「バフ」を当て、表面を磨き上げる
- 2 ジェットエンジン中に一枚一枚組み込まれているタービンブレード。ニッケル合金が使われているため、加工が難しい
- 3 ベルト研磨は、高速で動く研磨用のベルトによる加工法で、菅原さんが習得までに1年かかったレベル3の作業だ



企業情報

株式会社環境産業  
 所在地 / 栗原市志波姫南郷外沼 66  
 TEL 0228-25-3416  
 http://www.kankyous-jp/  
 代表取締役 / 佐藤 貴浩  
 資本金 / 1,000 万円  
 設立 / 1982 年 9 月  
 従業員数 / 14 人 (2019 年 12 月現在)  
 事業内容 / 公園施設設計・製作・施工及び販売、公園遊具・学校遊具の点検維持管理、土木工事・造園工事  
 企業理念 / 人々が集い、人々が心を和ませる



仕事 図鑑 CASE 04

遊具に安全・安心、遊び心とワクワクを

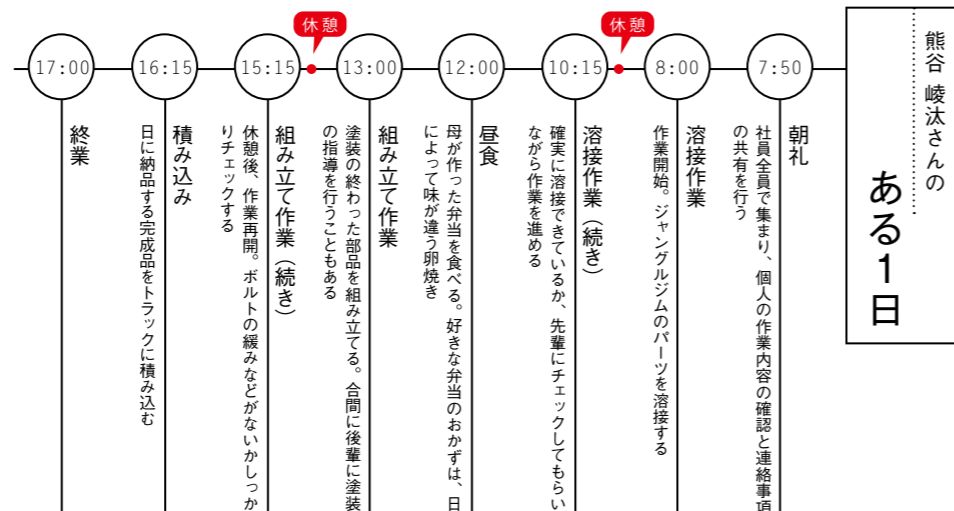
製造 熊谷 峻汰さん (23 歳)  
 株式会社環境産業 (栗原市)

全部はがして塗り直したことも失敗も成功の糧にする

「シャーツ」という音とともに火花が散る。溶接を終えた滑り台を電動工具で磨くのは、入社 6 年目の熊谷峻汰さん。「塗装の作業が一番大事なのは、この下地処理」と、真剣な表情だ。塗る前に素材の表面を磨き、シンナーで拭いて「脱脂」をする。さちんとできてないと、塗装の仕上がりが悪かったり、後から塗料がはがれたりするそう。「見えない部分だけど、絶対に手を抜いちやダメなところですよ」。品質が会社の信頼に直結することは、肝に銘じている。



雲梯に使うパイプを溶接する



フォークリフトの運転は、幼い頃からの憧れだ



塗装は、後輩の指導を任せられるほどの腕前に



ミリ単位で寸法を合わせ、鉄パイプを切断する



- やすりを装着した電動工具を使って、すべり台の手すり部分を研磨する熊谷峻汰さん。表面を滑らかにして塗料の乗りを良くする
- ブランコの組み立て作業。電動ドライバーでボルトを締め付けていく
- カラフルな複合遊具は公園の「顔」。現場で最終の組み立てを行い、全体像が見られる瞬間は感動的だ



「見えない部分が一番大事」  
 信頼の品質を支える丁寧な仕事

未来の ACE へ アドバイス

先輩からの

誰でも初めての仕事はうまくできません。新人は失敗することも怒られることも当たり前なので、あまり凹まないほうがいいですね。それより、なぜ失敗したのか、取り戻すにはどうするかを考えるほうが大切。それと、分からないことは自分で判断せず聞くと思います。何でも聞いていいのも新人の特権です。入社前は、知らない会社でしたが、今はここに就職して本当に良かったと思っています。設計から完成までを自社でできる仕事はすごく面白い。働いていてうれしいのは、自分の成長を感じるとき。初めて塗装を褒めてもらえたとか、溶接が前のときよりきれいになってきたとか、できることが増えるのは「自分が会社の役に立つ」ということなので。働きがいを見つけてるのは自分。「どこに入るか」より「そこで何をやるか」ですね。



株式会社環境産業は、公園や学校、幼稚園などに設置する遊具を作る。企画から設計、製作、施工までフルオーダーで手掛けるメーカーは、東北でも数社だけという。安全性と豊かな遊び心を兼ね備えた遊具作りがモットーだ。

熊谷さんは、これまで主に塗装を担当してきた。今どきのビビッドな色使いは、塗るのも楽しく「最近の遊具がこんなに色鮮やかだとは！ 入社してビックリしました」と笑顔だ。

下地処理の後にはさび止めを塗り、塗装を施す。設計図と全体の納期から、どの部材をいつまでに塗る必要があるかを割り出し、作業計画を立てる。「塗り間違えてしまうと、全部塗り直す必要があります。一度塗った塗料をはがすには、塗る時間の倍以上かかります」と熊谷さん。手間だけでなくコストもかかるため、「先輩に怒られてしまいます」と苦笑い。叱られるには理由がある。同じことで先輩から何度も注意されるように、手帳をいつもポケットに入れて、教わったことはすぐにメモを取るといふ。

仕事の幅が広がり充実の日々  
 「自分が遊びたくなる」遊具を作る

地元の迫桜高等学校(栗原市)の土木科を卒業して入社した当初は、分からないことばかりで、同年代が少ない孤独感もあり、「毎日辞めたかった」と打ち明ける。「何もできないまま投げ出すのはカッコ